

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県橋本市	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	農業振興条例について		
概要 和歌山県内で唯一大阪都市圏に含まれる市である。かつては、街道の交わる交通の要衝として栄えた。中心市街地とは別に北部の山中にニュータウン造成などが進む。 人口：約 6 万人 面積：130.55 km² 特産品：柿(生産日本一)、巨峰、卵、パイル織物生産、手作りのへら竿「紀州へら竿」 農業振興条例について 目的、基本理念、市の責務、農業者の責務、農業団体の責務、市民の役割、事業者の役割、市民の役割、施策の基本方針等が条例化している。農業及び農村を市民とともに守っていくという意識改革の確立並びに健康で豊かな市民生活を図ることを目的としている。橋本市農地台帳に登録された農業者並びに農業協同組合、農業共済組合、その他の関係団体や農産物を利用した事業販売を含む個人、法人その他の団体等で構成されている。 感 想 条例の目的と基本理念がしっかりしており、農業者への支援事業が明確に示されていることに感銘を受けた。また、市の責務、農業者の責務、農業団体の責務、市民の役割、事業者の役割、市民の役割、施策の基本方針が条例化され分かりやすく簡潔にまとめられており参考になりました。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県紀の川市	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	フルーツツーリズムについて		
概 要 農業産出額全体で和歌山県 1 位を誇る全国有数の果物産地。関西空港などへのアクセスも良く、また、大学も立地していることで若者が多く集まるまちとなっている。 人口：約 6 万人 面積：228.21 km² 特産品：フルーツ王国 桃、はっはく、いちじく、柿、キウイフルーツ、いちごなど。 全国直売所売上高ランキング第 2 位「もっけもん広場」約 2 7 億円、来客数約 7 7 万人 目 的 近郊大都市住民をターゲットに体験型観光を推進するとともに、地域資源である「フルーツ」に焦点を当てた地域づくり・生業おこしを展開。誘客の仕掛けと市民自らが考え実行していける体制を整え、情報発信を行うことで、地域内外から紀の川市のファンを獲得するとともに観光消費額の増加を図り、継続的な体制づくりを目的としている。 フルーツツーリズムの研究会を設立し、コーディネーターの指導のもとワークショップ毎月一回実施してきている。テーマを分けて 100 名で 38 回実施し、総数 358 名参加している。全国初となる大型のフルーツ体験型博覧会「ぷる博」を実施している。 事業内容 1 持続的体制の構築 2 商品開発（フルーツ寿司が定着している） 3 体験プログラムの開発と体験イベントの実施 4 フルーツのまちの雰囲気づくり 5 機運の醸成 6 フルーツのまちプロモーション強化 7 その他（泊まれる紀の川市になろう運動） 感 想 市が発起人となり、フルーツに焦点を当てた観光推進事業で目的が明確にして市民が主体的に行われるようワークショップを毎月行い、素晴らしい事業でありました。 ワークショップを指導していただけるコーディネーターや施策を指導していただけるアドバイザーなど、さらには、まちづくりプランナーなど、本市においてもさくらんぼやフルーツ体験をはじめ農業体験など、様々な観点から市民を巻き込んだ施策が必要と感じてまいりました。 企画・運営により、年間事業の商品開発や観光体験と観光イベントなどのターゲットを検討し、生業の成長と市民の成長がカギとなることが参考になりました。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県和歌山市議会	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	リノベーションまちづくり事業について 官民連携による稼げる空間リノベーションについて		
概 要 和歌山県人口の 40%が暮らす中核市。城下町として栄え、中心市街地にはその名残が多く残っている。瀬戸内海型の温暖な気候であり、マリンレジャーの拠点としても有名。 人口：約 35 万人 面積：208.85 km² リノベーションまちづくり事業 1 都市計画手法を用いた取り組み 市街化区域内 (1) 人口定着を図るため、住宅の供給を誘導するエリア (2) みどりと風致・景観を守るエリア (3) 工業専用地域や操業環境と居住環境を守るエリア 市街化調整区域 (1) 拠点となるエリア 公共施設周辺等の地域拠点となる特定集落・駅周辺は分譲住宅等の開発を認めるエリア (2) 一般の調整区域エリア 農家住宅等の通常の立地基準による立地可能な開発を認めるエリア (3) 高速道路 IC 周辺エリア 都市計画マスタープランに位置付けられたゾーンは地区計画により開発を認めるエリア 2 官民の遊休不動産等を活用したまちなか再生の取り組み 3 和歌山駅前地区第一種市街地再開発事業 4 居心地が良く歩きたくなるまちなかの実現 大学誘致×公共施設再編×リノベーション 地域に必要な学部の誘致と廃校舎の利活用 5 波及効果 5 大学を誘致、約 2,200 人の学生が街の中に通学 6 新たな展開 和歌山城前広場を設けて賑いの拠点とし、老朽化した和歌山城ホールを新築移転 感 想 都市計画に準じて、まちづくりを進めるに当たり、若者がまちなかに通学することは一番の活性化に繋がることに実感した。公共施設再編では利活用の多様性、統合の必要性を感じた。官民の遊休不動産等を活用したまちなか再生の取り組みを寒河江市も活用すべきである。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県有田市	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	農業次世代人材投資事業について		
概要 有田ミカンで知られ、有田川のほとりから見る一面のミカン畑は絶景。タチウオの漁獲量も日本一であり、海・山・川に恵まれた自然豊かなまち。蚊取り線香発祥の地。 人口：2 万 5 千人 面積：36.83 km² 農業次世代人材投資事業 リクルートと協働して実施する就農支援の仕組み。(AGRI-LINK IN ARIDA) 市役所に有田みかん課が常設しており、農家数約 1,000 世帯存在している。うち 53% に後継者がいない状況。40 歳未満の農業従事者は 2 % で 60 歳以上が 7 割を占めている。平成 2 年までは、5 割が兼業であった。現在は 6 割が専業となっている。 新規就農支援の新たなモデル 1 2 年間研修を受けて技術を習得 2 農地を確保 3 出荷先を確保 以上ことから、廃業予定の農地の荒廃を防ぎ新規就農者に価値のある農地を引き継ぐ。 本スキームに参加する農家の要件 1 廃農したい又は農地を縮小したい意向農家 2 農地を拡大したい意向農家 本スキームの支援対象となる新規就農者の要件 1 40 歳未満で市外から市内に転入する者 2 同一の家屋または敷地内に移住しない。 3 本事業の手続きによる登録を受けた農地データベースの中から選定された農地を利用。 4 これまでミカン農家を営んでいない。 感 想 農地拡大農家、農地削減農家、新規就農者の 3 者のマッチングにより、それぞれの後継者がいない悩みを解決するために説明していること。また、農地を信頼できる人に貸せること、価値のある農地を残していけること、後継者にもなりうること、有田ミカンを将来に残せることの素晴らしさ。 また、新規就農者の声として、就農面だけでなく、生活面も含めてサポートや地域に溶け込むことにも協力してくれ、就農先の先輩方がゆっくり覚えていけばいいと言ってくれ、困っていると親切に教えてくれ、日々勉強ですが、子どもが将来なりたい職業に「農家」が入ればいいとの言葉に感銘を覚えました。			